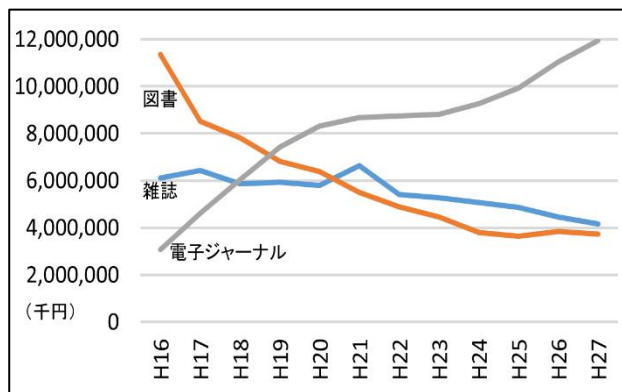


資料費確保を目標に掲げたクラウドファンディングプロジェクトへの取り組み

目的・趣旨 |

筑波大学はクラウドファンディング事業を手がける READYFOR 株式会社（以下、READYFOR）との間で、平成 29 年 1 月 26 日に民間事業者と国立大学との間では初となる業務提携を発表しました。クラウドファンディング（以下、CF）とは“crowd（群集）”と“funding（資金調達）”とを組み合わせた造語で、インターネット等を通じて不特定多数の人々から金銭による支援を募る手法を指します。今回の業務提携は寄附習慣の形成並びに新たな寄附者の発掘を行い、寄附収入を拡大し、本学の財政基盤の強化を図ることを目的としています。

これを受けて、提携後初の事例として本学附属図書館（以下、当館）が取り組んだのが、資料費確保を目標に掲げた CF プロジェクトです。背景には電子ジャーナル経費の高騰と、紙資料の購入費の減少があります（図 1）。当館職員も図書館資料を通じた豊かな知的体験を学生達に提供したいと思いながら十分な資料費を確保できていないことに歯がゆさを感じており、今後の財源確保における CF の可能性を測る試みとして、本プロジェクトを実施しました。



（図 1）国立大学資料費の推移
（文部科学省「学術情報基盤実態調査」より）

実施内容 |

一般的に CF には、寄附型、購入型、投資型などのタイプがあり、READYFOR では、前の二つのタイプで実施できます。当館では本学で定めた実施要項に則り、支援金額に応じて物品等を提供する“購入型”ではなく、支援者が在住の自治体において寄附金額に応じた税制上の優遇措置を受けられる“寄附型”にて実施しました。当館から支援者に対しては、当館 Web サイトや館内各所への芳名掲示、見学ツアー・貴重書内覧会への招待、5 年間使用できる学外者利用証の発行といったお返しを用意しました。



芳名パネル掲示の様子（新着図書コーナー）



寄附により購入した資料に貼付した寄贈シール

実施成果 |

本プロジェクトにより 428 冊の図書と、一度購読を見合わせていた延べ 66 タイトルの雑誌・新聞を購入できました。

また 300 名もの支援者から得られた賛同は今後につながる大きな成果です。本プロジェクトでは、卒業生や保護者といった大学関係者の枠を越えて広く社会一般に大学が抱えている課題を訴え支援を募ることができました。

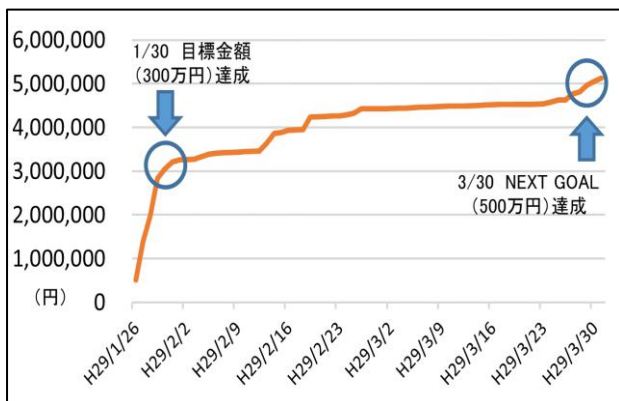
過去に他の CF プロジェクトに寄附をされた方で、READYFOR からのメールマガジンを通して本プロジェクトを知った方も多く、「予算不足により教育研究用の図書・雑誌等が購入できない事を知って心が痛みました」「大学へ交付される資金がそんなにも減少しているとは知りませんでした」といったコメントも寄せられています。CF への賛同者や SNS 等のツールのユーザーには若年者層も多く、比較的高額の支援者に提供する見学ツアーの顔ぶれも従来の寄附のイメージを覆して 30~40 代と見られる方が大半を占めていました。

現在の大学図書館の置かれた状況を広く発信し、大勢の方に知っていただけたことは大きな収穫でした。

本プロジェクトは業務提携に関する大学の報道発表に合わせて公開しました。READYFOR サイト内に用意されたプロジェクトページでは、大学の歴史や資料購入の現状を紹介してプロジェクトの意義を訴えました。広報に関しては、SNS 等を通じた情報の“拡散”が重要と考え、大学公式ホームページや当館ホームページでの広報に加え、当館がアカウントを保有する Twitter、Facebook での広報を積極的に実施しました。また、Web 上での情報は短期的に広範囲に拡散する傾向があると考えたため、一連の広報はプロジェクト公開直後に特に精力的に行いました。発信した情報は SNS 等で広く拡散され、開始後 1 週間を待たず当初の目標金額 300 万円に到達しました。

これを受けて 500 万円を新たな目標(「NEXT GOAL」)に掲げ、専門図書館の紹介やプロジェクトチーム一人ひとりの想いをプロジェクトページの新着情報に投稿して支援を呼びかけた結果、3 月 31 日の受付終了時点で延べ 307 名(実数 300 名)の支援者から 512 万 4 千円の寄附が寄せられました(図 2)。

プロジェクト成功後は、購入する資料の選定や発注、支援者へのお返しの準備と提供を行いました。最後に活動報告を当館 Web サイトに掲載し、支援者に報告書を送付して、7 月 31 日に本プロジェクトは終了しました。



(図 2) 支援金額の推移



寄附により購入した資料の館内展示の様子

今後の展開・課題 |

本プロジェクトには若手職員を中心とする有志のチームで取り組みました。特に準備期間は1ヶ月と短かったため、少人数ゆえのモチベーションの共有が大いに生かされました。一方、実施中の2ヶ月間、達成から終了までの4ヶ月間は、年度替りを挟む通常業務と並行しての作業となったこと、フラットな体制ゆえの意思決定の難しさ、会議等での情報共有が遅れ担当者に負担をかけてしまったこと等、実施体制には課題が残りました。

今後の展望として、今回得られた支援者とのつながりを保ち、継続的に図書館の動向を気にかけてくれる「図書館の味方」を増やしながら、新たな支援の輪を広げていくために様々な活動に取り組みたいと考えています。一方で、支援時のコメントには「一時的な金策よりも根本的な財源の確保に取り組むべきではないか」といったご指摘もありました。こうした声を真摯に受け止め、今後も安定的に資料購入費を確保するための方策を探っていきます。

本プロジェクトについては学内外の新聞取材や報告記事の執筆依頼、関係会議等での報告依頼も多数いただいています。また、大学全体でも他に実施したプロジェクトとあわせて、動画の作成や「筑波大学サポーターズカード（クラウドファンディング）」の発行といった「サンクスキャンペーン」を計画しています。こうした機会を最大限に生かして今回得られた成果と課題を広く発信することで、背景となる課題も含めて他の大学と取り組みを共有し、大学図書館全体の課題解決の一助となればと考えています。

参考文献・URL |

- (1)“資料費減少で危機。大学図書館に本を購入し若者に十分な学ぶ場を”。Readyfor.
<https://readyfor.jp/projects/tsukubauniv-lib>, (参照 2017-08-24).
- (2)“クラウドファンディングプロジェクト 2017 報告ページ（筑波大学附属図書館 web サイト内）”。
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/cf2017>, (参照 2017-08-24).
- (3)松野渉. 特集 東京地域グループから広がる新しいつながり: 筑波大学附属図書館クラウドファンディング: あるプロジェクトチームメンバーが考えたこと. 大学の図書館. 2017-07, vol.36, no.7, p98-100.
<http://hdl.handle.net/2241/00148380>
- (4)大和田康代, 石津朋之. 特集 図書館の話題アラカルト: クラウドファンディングによる資料費獲得への取り組み: 図書館員はクラウドファンディングの夢を見るか?. 図書館雑誌. 2017-08, vol.111, no.8, p502-503.
<http://hdl.handle.net/2241/00148379>

連絡先 |

筑波大学 学術情報部情報企画課（企画渉外）
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-6395